令和元年度　社会福祉法人中信社会福祉協会事業報告

１　事業目標

⑴　利用者本位の支援を行い、利用者が心豊かな生活を送れるよう努めます。

⑵　利用者と地域住民との交流の機会を増やすとともに、法人からの情報発信を推進し、地域社会に法人の取組みを周知します。

⑶　職員が笑顔で働く明るい職場風土を醸成します。

２　取組結果

⑴　経営

ア　中長期財政計画の策定

持続可能な組織及び事業の運営を行い、利用者が安心して生活を送ることができるよう、数字に基づいた科学的な法人運営を行う指針となる中長期財政計画を策定しました。

イ　職場風土の醸成（明るい職場づくり）

(ｱ)　就業規則等の改正

休暇取得を推進するため、就業規則の年次休暇取得方法に時季取得制度を加えました。

(ｲ)　パートタイム・有期雇用労働法改正に伴う対応

法改正の趣旨に沿って、有期雇用職員の給与水準や無期雇用転換等、待遇の改善を図りました。

(ｳ)　労働時間の適正な把握

タイムレコーダーの本格的な運用を開始しました。

(ｴ)　利用者ケース記録等各種記録システムの導入

情報管理の徹底、記録作業の効率化を図るため、障がい福祉総合業務システムを導入しました。

⑵　サービスの向上

ア　意思決定支援の推進

(ｱ)　障がい者が自らの意思を反映して生活できるよう、意思決定支援研修（令和元年１１月１３日）を実施し、職員の支援技能の向上を図りました。また、利用者満足度調査を実施し、調査結果を分析したうえで、提供サービスの充実、改善等に活かしました。

(ｲ)　虐待防止研修の実施

利用者への虐待防止、人権意識の高揚を目的に、職員を対象に虐待防止及び権利擁護に関する研修を実施しました。なお、平成３０年度に作成し、全職員に配布した虐待防止パンフレットも活用して周知啓発を図っています。

ａ　新任職員研修人権・権利擁護研修　令和元年４月２日

ｂ　虐待防止・権利擁護研修　令和元年７月３０日

イ　防災及び防犯対策

(ｱ)　防災及び防犯訓練の実施

大規模災害対応訓練として、令和元年９月１０日に浸水害を想定した災害対策本部設置訓練、安否確認訓練、図上訓練等を実施しました。また、各施設において避難訓練及び救急救命講習を実施しました。

(ｲ)　設備の充実

「梓荘」及び「ささらの里」に非常用自家発電設備整備するため、長野県に事業申請し、採択されました。当該事業は令和２年度に着手することとしています。

(ｳ)　避難確保計画の策定

松本市の浸水想定区域に該当する施設について、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定めた避難確保計画を策定しました。

⑶　地域とのつながり

ア　地域交流事業

施設等の行事、防災訓練等を通じて地域の方々や小中学校との交流事業を継続したほか、利用者の作品展「ほほえみアート展」を企画しました。（新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止）

イ　公益的事業の推進

次の事業を継続して実施しました。

(ｱ)　日中一時支援事業

(ｲ)　障害者相談支援事業

(ｳ)　タイムケア（利用者一時預かり）事業

(ｴ)　信州あんしんネットワーク事業への拠出

(ｵ)　地域における公益的取組み

都波岐の杜入浴サービス事業、松本障害者雇用支援センター利用者通勤費補助事業及びみすぎの森宿泊体験事業

ウ　法人紹介動画の制作

法人を紹介する動画を制作し、法人ホームページに掲載して公開したほか、職場説明会、施設見学等に活用しました。

⑷　人材の確保と育成

ア　人材の確保・定着に向けた取組み

福祉の職場説明会・就職面接会（長野労働局、長野県等主催）に参加しました。（令和元年６月１２日、７月７日、８月９日、計４会場）

イ　県内の福祉系大学、短大、専門学校及び高等学校への訪問及び採用案内

令和元年６月までに各学校を訪問し、採用応募を勧奨するとともに最近の学生の就職に関わる動向を調査しました。

ウ　職員採用試験の実施

職員採用試験を５回実施し、新たに１６人を採用しました。

エ　職員の健康管理

(ｱ)　衛生委員会において各職場の衛生管理状況を点検するとともに、産業医による健康相談を実施し、それぞれの課題に対して改善策を講じました。

(ｲ)　定期健康診断の実施等を盛り込んだ令和２年度衛生計画及び衛生教育計画を策定しました。また、全職員を対象としたストレスチェックを実施し、メンタル的なケアと不調の未然防止に取り組みました。

オ　職員研修の実施

前記の意思決定支援研修及び虐待防止研修のほか、新任職員研修、安全運転講習、職務階層別研修等を実施しました。

３　特記事項

⑴　法人虐待防止委員会の設置

心理的虐待、経済的虐待など、身体的虐待以外の虐待をも防止することを明確にし、併せて身体拘束を行わない支援を徹底するため、従前の身体拘束委員会を発展的に改組し、虐待防止委員会を設置しました。当該委員会において各施設の実態を確認・検証し、支援の向上を図りました。

ア　第１回虐待防止委員会　令和元年８月２７日

イ　第２回虐待防止委員会　令和２年２月１８日

⑵　施設及び設備の充実

ア　グループホーム「あさがお」移転新築のための用地取得

イ　グループホーム「杉のこ」屋根及び外壁塗装工事

ウ　グループホーム「やまぶき」浴室改修工事

エ　都波岐の杜デイルーム及び事務所改修工事

オ　共立学舎居室居室改修工事（個室化事業）

カ　あい・アドバンス今井玄関スロープ改修工事

キ　ドライブレコーダー、バックモニター等、車両安全装置の設置

⑶　新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症に対応するため、対策会議を随時開催し、従来の感染症対策に加え、感染源を施設に持ち込まないための厳格な予防対策を講じました。引き続き感染状況、国の動向等を注視し、迅速かつ適切に対応します。

令和元年度　事務局事業報告

（事務局総務課及び事務局サービス管理課）

1　事業目標

⑴　法令遵守を基本に持続可能な組織及び事業の運営を行います。

⑵　法人の理念、支援の実践等を広く地域社会に発信し、地域における法人の役割を周知します。また、地域住民の障がい者及び高齢者福祉に対する理解の促進を図ります。

⑶　職員の人権意識及び支援力の向上を図るとともに、俯瞰的な視点で今後の法人のあり方を考えられる人材を育成します。

⑷　職員同士相互に助け合い、健康で元気に働き続けることができる職場づくりに努めます。

2　取組結果

⑴　法令遵守を基本とした持続可能な組織及び事業運営

ア　役員改選

令和元年度定時評議員会において理事及び監事を選任し、理事会において理事長、常務理事、本部長及び施設長を選定しました。

イ　専門職の支援

(ｱ)　当法人の財政診断及び分析を行い、今後１０年間の財政運営の指針となる中長期財政計画を策定しました。

(ｲ)　働き方改革関連法等、労働関係法規の改正を受け、専門家の指導を仰ぎ就業規則、給与規則等を改正しました。

ウ　財務規律の強化

(ｱ)　決算監査（令和元年５月２２日）及び中間監査（令和元年１１月２７日）を実施し、監事からの指摘、要望事項等に対応しました。

(ｲ)　年２回、内部監査（令和元年７月及び１０月）を実施し、利用者預り金等の適正な管理に努めました。

(ｳ)　毎月、会計事務所の指導を受け、適切な経理処理を行いました。

エ　第１次中長期計画に基づく事業運営

平成３０年度に策定した第１次中長期計画（おもいやりビジョン）に基づき事業を運営するとともに、検証チームを立ち上げ、今年度の取組状況を検証しました。

⑵　情報発信の推進

ア　法人ホームページの活用

社会福祉法に規定される公開書類のほか、法人紹介ビデオを制作し、求人活動に活用しました。

イ　文化活動と地域交流

利用者の芸術作品を展示し、障がい者福祉への理解を深める催しの企画、利用者と学生、地域住民等との交流事業を企画・実施しました。

ウ　公益的取組みの発信

都波岐の杜入浴サービス、松本障害者雇用支援センター通勤費助成事業、みすぎの森宿泊体験事業等を広く周知し、取組みを進めました。

エ　防災・防犯対策

大規模災害対応訓練、各種防災・防犯訓練の実施に加え、浸水想定地域内にある事業所の避難確保計画を策定しました。

⑶　人材の育成

次のとおり各種研修を実施しました。

ア　支援職員及び厨房職員交換研修　（随時）

イ　新任職員研修　（令和元年４月２日）

ウ　中長期計画の理解と推進のための研修　（令和元年６月）

エ　虐待防止・権利擁護研修　（令和元年７月３０日）

オ　先進地視察研修　（令和元年９月２５日）

カ　移送サービス運転者講習　（年２回）

キ　安全運転講習会（令和元年１０月）

ク　意思決定支援研修　（令和元年１１月１３日）

ケ　喀痰吸引研修　（通年）

⑷　働きやすい職場環境づくり

ア　職員の衛生管理

毎月、衛生委員会を開催し、産業医による職場巡視、職員面談を行い、職場の環境改善を推進しました。

イ　思いやりと笑顔あふれる職場づくり

働き方改革関連法の施行に伴い、年次休暇の取得推進、ハラスメントにあたる行為の禁止及び有期雇用職員の待遇改善を目的として、関係規則を改正しました。

３　特記事項

⑴　法人虐待防止委員会の設置

新たに法人単位の虐待防止委員会を設置し、利用者の虐待、身体拘束に関する情報を共有し、改善策を講じました。

⑵　新型コロナウイルス感染症対策

施設長会議において対応方法を協議し、職員に周知しました。また、衛生用品の確保に向けて、各施設の在庫状況の把握及び調達方法について調整しました。

令和元年度　事務局障害者相談支援センター中信事業報告

１　事業目標

⑴　権利擁護及び意思決定支援の視点に立った社会福祉援助の提供

⑵　人材育成

⑶　地域貢献

２　取組結果

⑴　権利擁護及び意思決定支援の視点に立った社会福祉援助の提供

ア　指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業（以下「計画相談事業」という。）の実施

支給決定に基づきサービス等利用計画の作成、モニタリングを実施しました。モニタリングは、省令に定める期間内で常に利用者の状態やサービスの意向確認を行いました。また、関係機関を招集した支援会議を開催し、利用者の意思決定支援と目標達成に心がけ、本人の暮らしを支えるための計画を作成しました。

イ　松本圏域８市村受託事業（障害者相談支援事業）の実施

総合相談支援センターＷｉｓｈの松本地区西部エリアコーディネーターとして、計画相談事業に該当しない障がい児・者の相談等に対応しました。

また、障害者相談支援事業を受託した代表法人として８市村との受託契約、個々の受託法人との再委託契約を行い、さらに関係機関との調整を行いながら地域の課題解決に寄与しました。

⑵　人材育成

ア　当事者や総合相談センターのコーディネーター、市村関係者からの計画相談の依頼に対し、週１回のケース検討会議を通して情報共有し、全体で受入れの方法を検討することで各相談員の相談援助技術の向上を図りました。

イ　各種研修への参加

障がい者相談支援従事者研修（初任者・現任研修）、強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修及び実践研修）、障がい者相談支援従事者専門分野研修（地域移行・地域定着研修）に参加し、相談支援技術の向上を図りました。

松本圏域総合相談支援センターＷｉｓｈの事例検討会及び松本市ケアマネジメント連絡会に参加し、圏域の情報を得るとともに知識及び支援技術の習得を図りました。

⑶　地域貢献

ア　「松本障害保健福祉圏域自立支援協議会」運営事務局業務の受託

松本障害保健福祉圏域基幹相談支援センターの設置、松本圏域地域生活支援拠点等事業の令和２年４月開始に向けた自立支援協議会各種会議の運営に携わり、松本圏域における障がい児・者を取り巻く課題把握と課題解決のための協議を進めました。

イ　総合相談支援センター連絡会議への参加

行政担当者や相談支援センターのコーディネーターとの連携ができるように困難事例への関わりについての研修や圏域の相談支援の状況について理解を深めました。

３　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業

ア　計画作成及びモニタリング（実人数）　（単位：人）

区分	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
計画作成及びモニタリング	１，２３０	１，０６２	１，０７４

イ　利用現員　（単位：人）

区分（実人数）	平成３０年度末利用者数	新規利用者数	計画終了利用者数	令和元年度末利用者数
指定特定相談支援事業	３６８	２６	２７	３６７
指定障害児相談支援事業	１７	２	１	１８
合計	３８５	２８	２８	３８５

ウ　生活状況　（単位：人）

区分（実人数）	入所	在宅	合計
指定特定相談支援事業	１６８	１９９	３６７
指定障害児相談支援事業	０	１８	１８
合計	１６８	２１７	３８５

エ　地域別利用者数（実人数）

(ｱ)　指定特定相談支援事業　（単位：人）

松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
２５３	６	３０	２７	０	３３	２	１６	３６７

(ｲ)　指定障害児相談支援事業　（単位：人）

松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
８	０	０	１０	０	０	０	０	１８

⑵　障害者相談支援事業（松本圏域８市村受託事業）松本市西部エリア分

ア　活動実績　（単位：件）

相談回数	延べ件数
令和元年度	１，７２３
平成３０年度	１，７７６

（単位：人）

新規相談人数	実人数
令和元年度	３１
平成３０年度	２１

イ　障がい種別（延べ人数）　（単位：人）

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	計
６	１３	１８	７	７	５１

令和元年度　事務局地域サポートセンター事業報告

１　事業目標

⑴　年間目標を「利用者がそれぞれの個性を認め合い、安心して生活をおくることができる」とし、利用者１人ひとりの心に寄り添った支援に努めます。

⑵　季節行事、外出等の機会を通じて、地域住民との交流を図ります。

⑶　安全な住環境の提供

２　取組結果

⑴　利用者それぞれの適正に応じた支援を行い、世話人、支援員ともに気持ちに寄り添うことで、安心して穏やかな生活を送ることができました。

⑵　グループホームごとに季節の行事や外出を楽しみました。また清掃活動やボランティアなどを通じ、地域の方々との交流も続けてきました。

⑶　共同生活を送るなかで、利用者それぞれが役割意識とお互いの生活を大切にする気持ちを持てるよう支援をしました。

３　特記事項

⑴　避難確保計画の策定

利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、松本市の浸水想定地域にあるグループホーム「あさがお」の避難確保計画を策定しました。

⑵　安心した生活

４月から体調不良のため、日中活動に参加できず、グループホームで療養される利用者に２４時間体制での支援をはじめました。

また、利用者の食事形態が変化し、グループホームによっては高齢化、重度化が進んできました。

⑶　地域との交流

地域活動の一環として、清掃活動に協力するなどのつながりを大切にしてきましたが、１２月から感染症の拡大により、外部との接触を避け、帰省や外出制限をする期間が４カ月以上続きました。

⑷　安全な住環境の提供

令和２年度にグループホーム「あさがお」を新築移転するため、用地取得、建物の基本設計を進めました。

また、グループホーム「杉のこ」の外壁修理、グループホーム「やまぶき」の居室窓の２重サッシ化、ユニットバスを新しくするなど、住環境を改善しました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　グループホーム利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		２９年度	３０年度	元年度(b)	
杉のこ	7	7	7	7	0
やまぶき	8	8	8	8	0
いっきゅう	7	7	7	7	0
さつき	7	7	7	7	0
あさがお	7	7	7	7	0
西林	7	7	7	7	0
合計	４３	４３	４３	４３	0

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
杉のこ	1	1	0

※　平成３０年３月３１日に終了１人、令和元年９月に新規利用１人

⑶　年齢別状況　（単位:人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１１	5	3	0	4	２３	４５．１	４５．６
女	5	9	2	1	3	２０	５０．９	５２．０
計	１６	１４	5	1	7	４３	４８．０	４８．４

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	1	4	4	１１	3	0	２３	３．４	３．６
女	1	1	5	7	5	1	２０	３．８	３．８
計	2	5	9	１８	8	1	４３	３．６	３．６

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１０	0	1	4	0	5	1	2	２３
女	9	0	2	3	1	3	0	2	２０
計	１９	0	3	7	1	8	1	4	４３

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	0	1	1	0	0	0	2
女	0	0	0	1	0	0	1
計	0	1	1	1	0	0	3

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	8	2	9	5	２４
女	7	0	１１	1	１９
計	１５	2	２０	6	４３

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	世話人会議（各グループホーム）お花見（各グループホーム）
５月	お花見（各グループホーム）
６月	地区清掃活動（杉のこ・さつき・いっきゅう）
７月	山形村民生委員による環境整備ボランティア（さつき・杉のこ）
８月	外出支援（さつき・いっきゅう・西林・あさがお）
９月	地区清掃活動（あさがお・杉のこ・さつき） 防災訓練（各グループホーム）
１０月	世話人会（各グループホーム）
１２月	避難訓練（いっきゅう・西林）、クリスマス会（各グループホーム）
１月	新年会（各グループホーム）
２月	避難訓練（杉のこ・さつき）

6　健康管理状況

受診人数等　(単位：人・日)

区分	実人数	延日数
受診状況	３２	３４６
入院状況	2	６８
合計	３４	４１４

令和元年度　事務局都波岐の杜事業報告

１　事業目標

⑴　「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるようにする」という地域包括ケアシステムを実現する通所介護事業所として、地域住民の福祉ニーズに対応したサービスを提供し、社会的役割を果たします。

⑵　後期高齢者、認知症及び一人暮らし高齢者が急速に増加しており、介護保険制度は、３年ごとの改正が続いています。地域住民の需要に応えられるサービスのあり方を検討し、事業を安定的に運営できるように努めます。

⑶　人権を尊重した利用者本位の質の高いサービス提供を行うため、職員が福祉専門職としてスキルアップするための各種研修に参加します。また、職員間のコミュニケーションを図り、チームで働きやすい環境づくりを進めます。

２　取組結果

⑴　地域住民の福祉ニーズに対応したサービスの提供

ア　入浴サービス及び入浴設備貸与事業

平成２９年度から開始した地域における公益的な取組みの「入浴サービス及び入浴設備貸与事業」は、今年度、３人の利用者に延べ１８回利用いただきました。この入浴サービスの利用から当事業所の利用につながったケースがありました。

イ　利用者の受入れ

新規利用者の受入れは、上半期は４人でしたが、下半期の新規利用者は１人にとどまり、中・重度（要介護３～５）の要介護者は、平均で１８％となりました。入院等の理由により利用中止となる利用者が８人と例年に比べ多く、１年間を通しての利用実績は、要支援及び軽度（要介護１～２）の要介護者は８２％となりました。

ウ　地域交流

地域に開かれたサービスとするため、設置が義務付けられた「運営推進会議」の開催、地元の小屋第一公民館で開催される「ふれあいサロン」に参加する等、地域との交流に取り組みました。２月以降は新型コロナウイルスの感染防止のため、訪問理髪など外部からの訪問をお断りするとともに、ふれあいサロンも町会の判断により自粛されています。

⑵　安定した事業運営

資格保有の生活相談員が１人のため、当該職員の公休日には認知症加算が請求できず、年間の認知症利用者の通所が２０％を下回ったことから条件を満たせないため、令和２年度は加算が取れないことになります。１１月以降に入院や入所施設への移動などの理由で８人が利用中止となり、大幅な減収となりました。ケ

アマネージャーに空き情報を提供して利用者の確保に努力しています。

⑶　質の高いサービスの提供

認知症研修、事業者関係団体主催の研修等に参加した職員が伝達研修を行い、提供するサービスの質を向上することができました。

３　特記事項

事務スペースが食堂兼機能訓練室と混在していたことから、和室を改修して事務室を設置しました。これにより利用者のプライバシー保護と活動スペースの拡大、事務業務の効率化を図ることができました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び契約者　（単位：人）

区分	定員	契約者数
地域密着型通所介護	１５	２７
総合事業		４

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
地域密着型通所介護	５	９	△４
総合事業	０	４	△４

⑶　年齢別状況　（単位：人・歳）

区分	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	合計	平均年齢	前年度平均年齢
男	０	０	２	２	２	１	７	８４．９	８４．６
女	０	０	４	５	４	１１	２４	８６．８	８４．２
合計	０	０	６	７	６	１２	３１	８５．９	８５．４

⑷　介護区分認定状況　（単位：人）

区分	事業対象者	支援１	支援２	介護１	介護２	介護３	介護４	介護５	合計
男	０	０	０	３	２	０	１	１	７
女	０	１	３	８	８	２	２	０	２４
合計	０	１	３	１１	１０	２	３	１	３１

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	宮田地区	村井地区	神林地区	笹賀地区	芳川地区	筑摩地区	その他	合計
男	０	０	０	３	２	０	２	７
女	３	２	２	７	３	０	７	２４
合計	３	３	２	９	１１	０	９	３１

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	お花見
５月	ピクニック
６月	アジサイ見学
７月	七夕祭り
８月	夏祭り
９月	敬老会・総合防災避難訓練
１０月	ぶどう狩り
１１月	紅葉ドライブ・外食会
１２月	クリスマス会
１月	新年会
２月	節分
３月	開設１１周年記念行事
毎月	誕生会、ツバキノモリンピック

⑵　日中活動の実施状況

活動	活動の状況
軽体操	全身の軽体操、棒体操、嚥下機能体操
脳トレーニング	新聞読み聞かせ（質疑応答）、ぬり絵、間違い探し、クロスワードパズル、点つなぎ、計算、漢字問題等各種脳トレ問題、読書等
創作	ちぎり絵カレンダー（毎月）、書初め、季節の創作（折り紙、壁掛け等）、ペーパークラフト、編み物、裁縫、花絵アート等
調理	ヨモギ餅、柏餅、やしょうま、まゆ玉、ピザ、干し柿、クッキー等
外出	花見、ピクニック、アジサイ見学、昼食外出、ぶどう狩り、紅葉狩り等、地区のふれあいサロン参加（年２回）
イベント	毎月の誕生会、節分、ひな祭り、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会、創立記念行事
レクリエーション	毎月の曜日対抗ツバキノモリンピック（各種ゲーム）、カラオケ、歌、正月あそび、ボッチャ等

6　給食

年間給食数　（単位：人・食）

利用者	職員等	合計
２，７４１	３０８	３，０４９

7　短期入所事業等実施状況　（単位：人・日）

区　分	定　員	実人数	延利用日数
松本市ナイトケア事業	１	０	０

8　地域密着型通所介護・総合事業利用実績　（単位：日・人）

月	営業日数	利用契約者	延利用者数	１日平均利用者数
４月	２６	４０	２７０	１０．３
５月	２７	３９	２６１	９．７
６月	２５	３９	２４０	９．６
７月	２７	３９	２６２	９．７
８月	２７	３８	２４２	８．９
９月	２５	３８	２５２	１０．０
１０月	２６	３８	２４１	９．２
１１月	２６	３７	２０５	７．８
１２月	２４	３６	１９５	８．１
１月	２４	３４	１８４	７．６
２月	２５	３２	１９０	７．６
３月	２６	３１	１９９	７．６
合計	３０８	（平均） ３６．７	２７４１	（年間１日平均） ８．８

令和元年度　事務局松本障害者雇用支援センター事業報告

１　事業目標

⑴　利用者と家族の意思を尊重し、利用者の就職が早期に実現できるよう努めます。令和元年度の新規利用者の目標を７人とします。また、就職者の目標を７人とします。

⑵　職業生活を円滑に営むことができるように有効なＯＪＴ（職場実習）を促進し、一般就労につなげます。職場定着支援については、就職後６カ月間を重点に取り組み、６カ月経過後は、必要に応じて「就労定着支援事業」を行います。

⑶　職場定着支援として、障がい者の雇用促進に資するため、職場適応援助者（ジョブコーチ）の資格を有効に活用し、長野障害者職業センターと協力して法人連携の支援に努めます。令和元年度の目標は、中南信地域で８人とし、併せて、職場実習先の確保を行います。

⑷　職業能力の向上を図ることを目的に、長野市開催予定の「第４５回長野県障がい者技能競技大会」に参加し、入賞を目指します。

２　取組結果

⑴　新規利用者及び就職者の状況

ア　当センターの広報活動を養護学校や高等学校に実施し、希望者に対しての施設見学や体験実習を行い、利用者１０人と新規の利用契約を締結できました。

イ　日々の施設内外のトレーニングにより必要な基本的な労働習慣の体得と、意識の向上を図るための職業準備トレーニングを行いました。常に家族と連携し、連絡シートのやり取りを行い、支援者含めての個別支援会議等を通して、利用者と家族の意思を尊重した形で１２人の就職者を送り出すことができました。その他３人は利用継続できませんでした。

⑵　就労定着支援の状況

就労定着支援（就職して６か月後からの支援）を４人実施しました。令和元年度、継続して定着支援できている利用者が３人、離職した方が１人でした。

⑶　職場定着支援の状況

ジョブコーチ資格を有効に活用し、長野障害者職業センターと協力して、今年度の目標８人に対して、７人の支援を行いました。今後の職場実習先の確保につなげるために企業に対しての継続支援を行いました。

⑷　長野県障がい者技能競技大会

第４５回長野県障がい者技能競技大会に製品パッキング、ビルクリーニング及びＤＴＰ部門に９人参加しました。そのうち、製品パッキング部門で金賞と銀賞、ＤＴＰ部門で銀賞を獲得しました。

３　特記事項

⑴　避難確保計画の策定

利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、防災体制、避難誘導、防災教育等について定めた避難確保計画を策定し、水害を想定した訓練を実施しました。

⑵　全国技能競技大会

製品パッキング部門金賞者は、１１月に愛知県で開催された全国技能競技大会に参加しました。初めての参加でしたが、課題はやり遂げることができました。

⑶　家族と職員合同研修会

利用者の特性を学ぶため、長野県発達障がいサポート・マネージャーによる、家族・職員合同研修会を開催しました。また、訓練生にも月１回の研修を行っていただき、働くための心構えや知識を深めることができました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	継続利用者 (a)	新規利用者 (b)	利用終了者 (c)	現員 (a)+(b)-(c)
就労移行支援事業	１２	１０	１５	7
就労定着支援事業	－	4	1	3

⑵　利用実績（延べ人数）　（単位：人）

区分	平成３０年度	令和元年度	差引
就労移行支援事業	３，８２８	２，４６２	△１，３６６

⑶　年齢別状況（実人数）　（単位：人・歳）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	合計	平均年齢	前年度平均年齢
男	6	1	0	0	0	7	２３．９	２３．１
女	0	0	0	0	0	0	0	２４．０
合計	6	1	0	0	0	7	２３．９	２３．５

⑷　地域別利用者数（実人数）　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	合計
男	4	0	1	1	0	0	0	1	7
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	0	1	1	0	0	0	1	7

⑸　障がいの状況（実人数）

ア　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	合計
男	0	0	1	3	4
女	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	3	4

イ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	合計
男	1	1	0	2
女	0	0	0	0
合計	1	1	0	2

ウ　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	４級	５級	６級	合計
男	0	0	0	0	0	1	1
女	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	1	1

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	新年度利用開始式、お花見、避難訓練
５月	野外訓練
７月	長野県障がい者技能競技大会
８月	七夕飾り、企業見学、就労移行事業所合同説明会
９月	長野県障がい者スポーツ大会、就職面接会（松本）、
１１月	全国アビリンピック、就職面接会（諏訪・伊那）、企業見学
１２月	お楽しみ会、大掃除
１月	書初め、就職面接会（松本）
２月	豆まき、調理実習、交通安全教室
３月	送別会
通年	利用開始式、出発の式、家族と職員の合同研修会、職員研修

6　職種別就職の状況（実人数）　（単位：人）

職種	製造業	サービス業	運送業	食品製造	クリーニング	福祉施設	合計
人数	5	1	1	1	2	2	１２

7　職場実習の状況（各月の実人員）　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
実人員	10	9	7	9	6	6	6	3	3	2	0	0	5.1

8　職場定着支援の状況（実人数）　（単位：人）

身体	知的	精神	その他	合計
0	3	3	1	7

令和元年度　梓荘事業報告

1　事業目標

⑴　支援内容の検討と調整を行い、支援体制と提供サービスの充実に努めます。

⑵　専門研修を行い、職員の資質向上を図り、支援の充実に努めます。

⑶　地域に情報を発信し、開かれた施設として、地域貢献に努めます。

2　取組結果

⑴　充実した支援体制の整備

ア　職員はそれぞれチェックリストを使い、自身の苦手とする課題を抽出し、分析するなど、接遇における人権擁護と虐待防止の意識向上に努めました。

イ　調整会議の他、男性ミーティング、女性ミーティングを通じて支援の課題や内容を検討見直しするとともに、新人職員には研修やチューター制度による先輩職員からの指導、異動による転入職員とは相談を密に行いながら現場の経験を積み、利用者個々の特性を踏まえ、状況に応じた支援の向上に努めました。

ウ　車座集会や日々のコミュニケーションを通して、利用者の声に耳を傾けるとともに苦情・要望については真摯に受け止め、丁寧な説明と解決に向けた取り組みに努めました。

⑵　支援の充実

ア　安全で安心できる暮らし

梓川消防署の指導の下、年２回の救急救命研修及び感染症予防研修を実施し、利用者の高齢化・重度化への対応、容態急変時の対応を学び、確認しました。

また、夜間総合避難訓練、２回の昼間避難訓練、防犯訓練を実施し、緊急時に適切な行動がとれるよう努めました。

一方、ヒヤリハット・事故事案を速やかに周知・共有するとともに、再発防止に努めました。

イ　健康な暮らし

医務、支援のチームワークにより日々の生活の中で気づきを大切に利用者の些細な体調変化も見逃さず、嘱託医との連携を密にし、健康維持に努めました。

また、リハビリ専門職と連携した機能訓練を行い、機能低下防止に努めました。

ウ　楽しい暮らし

日帰り旅行、希望に沿った外出支援、季節行事や選ぶ楽しみの選択食、職員手作りの蕎麦会、レクリエーション活動、クラブ活動などの日中活動の充実を図り、生活に楽しみと潤いのある暮らしが送れるよう努めました。

⑶　地域貢献

ア　通所部については、１日の平均利用者９人で在宅障がい者支援に貢献することができました。

イ　短期入所は定員２名ですが、入所者の入院時の空床を利用した受入れを行うことで、短期入所の受入数は前年度比で４割増やすことができました。

ウ　毎月実施している車座集会に第三者委員や民生・児童委員の参加をいただき、利用者の生活の様子や施設運営を理解する機会を提供しました。梓川中学校との交流では、車椅子介助などを通して福祉体験の機会を提供できました。

エ　福祉系教育機関の実習生を受入れるなど、施設を実践の場として提供しました。

オ　松本市で実施された災害時における福祉避難所受入れ訓練に職員を派遣し、有事の際に地域の福祉に資するための研修の機会としました。

カ　施設入口にＡＥＤの看板を設置し、地域で活用していただけることを周知しました。

３　特記事項

⑴　６月に施設開設４０周年を記念する式典を挙行し、梓川中学校吹奏楽部など、多くの地域の方々のご支援のもと、温かく盛大に実施することができました。地域の方々とのつながりの大切さを感じながら、利用者に地域の方々との交流を楽しんでいただきました。

⑵　利用者１人がインフルエンザに感染しましたが、迅速な治療、徹底した消毒や職員の適切な対応で感染拡大することなく収束できました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		29 年度	30 年度	元年度(b)	
生活介護事業（入所）	５５	５２	５１	５１	２２
生活介護事業（通所）		３２	３２	２６	
施設入所支援事業	５０	５２	５１	５１	１

⑵　異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業（入所）	5	5	0
生活介護事業（通所）	4	4	0
施設入所支援事業	5	5	0

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１	１８	１	５	１	２６	５６．０	５５．３
女	２	５	６	２	１０	２５	６３．０	６４．７
計	３	２３	７	７	１１	５１	５９．４	６０．０

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	５	１１	０	１	０	１７	４５．１	４５．５
女	７	２	０	０	０	９	３２．０	３５．８
計	１２	１３	０	１	０	２６	４０．６	４０．７

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	０	６	１９	２５	５．８	５．８
女	０	０	１	１	１	２３	２６	５．８	５．９
計	０	０	１	１	７	４２	５１	５．８	５．８

イ　通所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	３	２	５	７	１７	４．９	５．２
女	０	０	０	０	３	６	９	５．７	５．３
計	０	０	３	２	８	１３	２６	５．２	５．２

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１３	１	２	６	０	２	１	０	２５
女	１７	２	１	１	１	２	１	１	２６
計	３０	３	３	７	１	４	２	１	５１

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１３	０	０	４	０	０	０	０	１７
女	５	０	０	４	０	０	０	０	９
計	１８	０	０	８	０	０	０	０	２６

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	２１	４	０	０	０	０	２５
女	１５	９	２	０	０	０	２６
計	３６	１３	２	０	０	０	５１

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	4	2	1	0	7
女	6	3	0	0	9
計	１０	5	1	0	１６

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	１７日　衣料品出張販売
５月	１５日　春祭り、２６日　家族会総会
６月	１日　梓川小学校運動会、７日　日帰り旅行、３０日　４０周年記念式典
７月	３日　衣料品出張販売、２８日　夏祭り
９月	３日　日帰り旅行、２８日　梓川中学校文化祭見学
１０月	２０日　秋祭り
１１月	２０日　衣料品出張販売
１２月	１１日　忘年会、２２日　クリスマス会
１月	７日　新年会
２月	３日　節分会、２５日　寿司を賞味する会
通年	生け花・ケア梓　ボランティア
通年	梓川中学校交流会　計１０回

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
音楽クラブ	１０	１７９	カラオケ、音楽鑑賞
書道クラブ	9	４３	施設内展示、秋祭り展示
絵画クラブ	9	８２	デッサン、塗り絵、施設内展示
映画鑑賞	1	１６	ＤＶＤ鑑賞
外出	5	２０	松本城、フラワーパーク、ドライブ
計	３４	３４０	

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数	延人数
病院	精神科検診	1	3
	外科受診	2	１７
	整形外科	1	4
	耳鼻科	1	3
	眼科	2	6
	歯科	2	7
	呼吸器	2	6
医院	内科検診	５２	２，５１１
	精神科	１７	２０７
その他の医療機関	歯科検診	５０	１２４

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	29 年度	30 年度	元年度	29 年度	30 年度	元年度
受診状況	１４	１２	２３	４４	４５	７９
入院状況	１１	１２	１２	３７９	６０６	５６６
施設内処置状況	５２	５２	４６	７，０９２	７，８９２	９，０１８
機能訓練実施状況	５２	５２	５１	５２	５２	５１
合計	１２９	１２８	１３２	７，５６７	８，５９５	９，７１４

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

利用者	職員等	計
５５，９４２	３，３６３	５９，３０５

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	１，５００kcal	１，４７９kcal
タンパク質	６０g	６４．２g
脂質	４２g	４５g

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数	間食
主食	常食	１８	週１回 水曜日
	軟飯	４	
	粥食	２４	
	ミキサー食・ゼリー食	５	
副食	常食	１３	
	粗刻み	６	
	細刻み	５	
	刻み	１５	
	ミキサー食	１２	
計	５１		

８　短期入所事業等実施状況　（単位:人）

区分・年度	定員			実人数			延べ利用日数		
	２９	３０	元	２９	３０	元	２９	３０	元
短期入所事業	2	2	2	0	14	20	0	463	437
日中一時支援事業	0	0	0	3	3	4	126	86	94

令和元年度　共立学舎事業報告

１　事業目標

⑴　利用者本位で、安心・安全なサービスを提供します。

⑵　権利擁護・意思決定支援に向けての対応を強化します。

⑶　施設の住環境・設備環境の美化に取り組みます。

⑷　地域社会との交流をめざし、施設の取組状況等を情報発信します。

⑸　職員が働きやすく、明るい職場環境を作ります。

２　取組結果

⑴　利用者本位で、安心・安全なサービスの提供

ア　日中活動について、現行の３つの班を基本としながら、さらに班の枠を超えた取組方法（全体活動やグループ化等）を検討し、次年度から利用者の要望等を踏まえ見直すこととしました。

イ　利用者の身体機能の回復・維持を図るため、新規購入の「平行棒」の活用や散歩時における速歩の導入のほか、レクリエーションの中で「スポーツボイス」に取り組みました。また、健康管理の面では、特に感染症予防対策（予防、吐しゃ物の処理、消毒等）を徹底し、健康維持と悪化防止に心掛けました。

ウ　防災・防犯関係では、避難訓練について夜間を含め２回行い、９月には防犯訓練を実施しました。

エ　保護者会とのネットワークを再構築するため、環境美化活動（窓ふき、除草等）を４回行うとともに、活動後に昼食等を通して交流を行いました。

⑵　権利擁護・意思決定支援に向けての対応

ア　個別支援計画に係る研修会を６月及び１月に実施しました。特に１月には、知障部内連携の一環として、「あい・アドバンス今井」の取組みについても研修しました。

イ　職員会議や主に係長以上の職員による運営会議において、事例検討等を行い、日々の利用者支援に反映できるよう取り組みました。

ウ　各種研修会への参加のほか、施設運営等（日中活動、体制等）の参考にするため、１２月に北信地方の先進施設を視察しました。

なお、予定していた県外研修は、感染症対応のため取り止めました。

⑶　施設の住環境・設備環境の美化

ア　利用者のプライバシーが守られる住み良い住環境を整えるため、２人部屋をパーテーションで仕切り、４部屋（男性３部屋、女性１部屋）を個室化しました。次年度に利用者の意向及び状況を検証し、今後の取組みについて検討します。

イ　老朽化の激しい備品については、耐用年数や使用状況を考慮し更新を行ったほか、緊急時の避難経路に当たるホール及び男女各棟の出口の段差をスロープの設

置により解消しました。

⑷　地域社会との交流をめざし、施設の取組状況等の情報発信

ア　地域交流をさらに図るため、次年度から地域の中で活躍している皆さんを招いてお話や講習等をしていただくため、地元の「地域づくりセンター」に派遣について依頼しました。

イ　鉢盛中学校の文化祭を利用者が見学するとともに、文化祭において利用者の作品展示をしていただくなど地域への情報発信に努めました。また、道の駅「いまい恵の里」でクラフト製品（雑巾等）を販売しました。

ウ　松本及び飯田の短期大学の学生を実習生として受け入れるとともに、松本養護学校生徒の見学を受け入れました。

エ　月１回、ボランティアグループの訪問による紙芝居等を通して、グループと利用者及び利用者間の交流を図りました。

⑸　職員が働きやすく、明るい職場環境作り

ア　看護師が事務室に席を置き業務を行うこと、朝会及び業務の引継ぎ時を活用しての職員間のコミュニケーションの充実を図ることのほか、ホワイトボードを利用して重要事項等を掲示するなど、職員間でより一層の情報共有を図りました。

イ　パート職員の増員、昼休みの当番制による明確化、早番・遅番勤務の試行等の勤務体制の充実や安心して働くことができる職場づくりに努めました。

ウ　複数の厨房職員の療養による長期休暇取得や夜勤パート職員の退職などで、業務の遂行に不安が生じ、さらに公休も取れない状況もありましたが、派遣職員やパート職員により対応しました。

３　特記事項

⑴　２人部屋を仕切って、４部屋を個室化しました。

⑵　次年度の実施に向け、日中活動・班体制、知障部内の連携及び地域交流の方法について検討しました。

⑶　夜勤職員の負担軽減を図るため、早番・遅番勤務を試行しています。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		２９年度	３０年度	元年度(b)	
生活介護事業	５５	５６	５７	６２	7
施設入所支援事業	３０	３０	２９	３０	0

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	2	0	2
施設入所支援事業	2	1	1

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	5	8	1	2	1	１７	５４．１	５３．２
女	2	2	3	2	4	１３	５６．０	５９．４
計	7	１０	4	4	5	３０	５４．９	５６．３

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	6	１０	3	1	0	２０	４４．５	４４．０
女	5	4	1	1	1	１２	４８．７	４８．０
計	１１	１４	4	2	1	３２	４５．８	４６．０

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	0	0	0	3	6	8	１７	５．３	５．５
女	0	0	1	3	7	2	１３	４．８	４．８
計	0	0	1	6	１４	１０	３０	５．２	５．２

イ　通所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	0	0	2	１１	6	2	２１	４．４	４．５
女	0	0	1	6	4	0	１１	４．３	４．２
計	0	0	3	１７	１０	2	３２	４．３	４．４

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１１	0	1	0	1	3	1	0	１７
女	8	0	0	5	0	0	0	0	１３
計	１９	0	1	5	1	3	1	0	３０

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１３	0	5	0	0	3	0	0	２１
女	6	0	2	0	1	2	0	0	１１
計	１９	0	7	0	1	5	0	0	３２

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	0	1	0	1	0	0	2
女	0	2	1	0	0	0	3
計	0	3	1	1	0	0	5

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	２４	0	１１	1	３６
女	9	3	１２	0	２４
計	３３	3	２３	1	６０

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	１日　新年度入所式　１６日　利用者健康診断 １８日　お花見会　２５日　保護者総会
５月	７日　歯科大巡回健診　２９日　救急救命講習会
６月	７日　「クラフト班」旅行　１４日　「ボビー班」旅行 ２０日　環境整備　２６日　避難訓練 ２８日　「ファーマーズ班」旅行
７月	５日　七夕会　　２４日　保護者会作業
８月	９日　暑気払い
９月	８日　県障がい者スポーツ大会　１４日 保護者会作業 ２０日　防犯訓練　２６日　運動会(第２共立学舎と合同)
１０月	１０日　保護者会作業　２０日　共立祭(第２共立学舎と合同)
１１月	７日　インフルエンザ予防接種　２４日　保護者会作業 ２８日　県知的障がい福祉大会（中信地区開催）
１２月	７日　「イオンディライト㈱」様による清掃ボランティア・寄附 ２０日　クリスマス会　「イオンリテール㈱」様から寄付
１月	１５日　三九郎
２月	３日　節分
３月	３日　ひな祭り（新型コロナウイルス感染症対応で中止）
通年	ボランティアグループ「あのねの会」の訪問（８回）

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
スポーツボイス	1	５９	音楽に合わせた健康体操
カラオケ	1	９６	カラオケ大会
合計	2	１５５	

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数	延べ人数
病院	精神科検診	３０	３０１
医院	内科検診	６０	６０
その他の医療機関	歯科検診	４１	６９

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	29 年度	30 年度	元年度	29 年度	30 年度	元年度
受診状況	32	31	37	405	315	628
入院状況	5	2	4	159	75	77
施設内処置状況	25	25	43	1,485	1,302	3,404
合計	62	58	78	2,049	1,692	4,109

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

利用者	職員等	計
３７，５２４	２，５１０	４０，０３４

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	２，０００kcal	２，０５７kcal
タンパク質	７０～８０g	７９．５g
脂質	４４．４～５５．６g	５２．６g

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数	間食
主食	常食	４７	毎日
	粥食	９	
副食	常食	４６	
	細刻み	２	
	粗刻み	８	
ミキサー食・ゼリー食		３	
経管栄養		０	
計	５９		

８　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延べ利用日数		
	２９	３０	元	２９	３０	元	２９	３０	元
短期入所事業	2	2	2	10	10	10	442	478	498
日中一時支援事業				10	10	12	1,088	941	719

令和元年度　第２共立学舎事業報告

１　事業目標

⑴　利用者が地域で自立した生活を送るための基盤として、工賃水準の向上を目指します。

⑵　利用者の自己選択・自己決定を重んじ、社会参加の機会を増やすと共に、社会人としてのマナーを習得するための支援を行います。

⑶　職員が、共通意識を持って利用者支援にあたります。

⑷　事業所を利用する全ての人にとって安全で安心な労働環境づくりに努めます。

２　取組結果

⑴　工賃向上に向けた取組み

ア　施設外就労及び法人内施設清掃業務等

(ｱ)　施設外就労は計画どおり実施することができました。

(ｲ)　法人内施設清掃業務及び業務実習は、新型コロナウイルスの感染予防策として２月２６日から一部を除いて中止しています。

(ｳ)　封入封緘

サッカーＪ２松本山雅のホームゲームスタジアムバッグ封入作業について、新型コロナウイルス感染症関連で２月２６日からの公式戦延期を受け、予定していた２回分の封入作業が中止になりました。

イ　資源物回収業務

(ｱ)　紙出荷先の紹介により、新規にＪＡ塩尻関係５カ所の回収先が増えました。（１３，０００㎏）

(ｲ)　「岡谷消費者の会」の家庭廃油の一斉回収が開始され、６月と１２月の２回回収を行いました。（６００ℓ）

※　古紙、廃食油、缶類などの資源物の回収作業を行い回収量は増えていますが、古紙の値段が１１月にそれぞれ１円ずつ下がっています。

＜雑誌３円→２円、段ボール７円→６円、新聞８円→７円（１㎏）＞

(ｳ)　トイレットペーパーの原価高騰と消費税の増税対応として、価格の見直しを行いました。（法人内、松本市役所及び一般）

(ｴ)　ペットボトルの処理は、不衛生で感染症が懸念されるため廃止しました。

⑵　利用者の自己決定の尊重と社会人マナー取得の支援

利用者本人のニーズを大切にした個別支援計画を作成し支援を行うとともに、福祉的就労の場における職業人のマナーとして、夜更かしやスマホ（ライン、メール等）の使用などを家族と共通認識を持って支援に当たりました。また、施設でのスマホの使用時間等のルールを自分たちで決めています。

⑶　職員間の共通意識を持った支援

全職員が常に利用者の人格及び人権を守る意識を持って支援に当たり、名前の呼び捨てや「ちゃん付け」には特に注意を払いました。また、朝夕の会議で気づきについて共有し、問題を未然に防ぐよう同じ方向を向いた支援を行いました。

⑷　安全・安心な労働環境づくり

産業医の観察結果を踏まえ、腰痛予防に椅子の高さを調整し、整理整頓を心がけました。また、職員全員が助け合いの気持ちを持って従事しました。

３　特記事項

⑴　入院と療養で長期欠勤の利用者が１人いました。

⑵　新型コロナウイルス感染症の予防対策として、出勤時の検温やうがい・手洗い・手指消毒・マスク着用を全員が行い、午前と午後に施設内の清掃及び消毒を行いました。また、屋外の作業中の感染予防対策として、手袋・マスクの着用と作業後の消毒を行っています。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		２９年度	３０年度	元年度(b)	
就労継続支援Ｂ型事業	４０	３８	３９	３９	△１

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
就労継続支援Ｂ型事業	1	1	0

⑶　年齢別状況　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１４	7	1	0	1	２３	３７．３	３５．０
女	4	１１	1	0	0	１６	４４．０	４３．９
計	１８	１８	2	0	1	３９	４０．１	３８．５

⑷　障害支援区分認定状況　（単位:人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	0	5	6	7	0	0	１８	３．１	３．２
女	1	2	5	5	2	0	１５	３．３	３．４
計	1	7	１１	１２	2	0	３３	３．２	３．３

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１７	0	1	3	1	1	0	0	２３
女	7	0	2	3	0	1	0	3	１６
計	２４	0	3	6	1	2	0	3	３９

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	0	0	1	0	0	0	1
女	1	0	0	0	0	0	1
計	1	0	1	0	0	0	2

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	8	1	１２	2	２３
女	5	0	１０	0	１５
計	１３	1	２２	2	３８

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	１日　新年度顔合わせ会　１９日　利用者健康診断 ２１日　保護者総会
５月	７日　歯科検診
６月	２６日　避難訓練
７月	７日　七夕
８月	２日　暑気払い
９月	３日　歯科検診　２５日避難訓練 ２６日　共立学舎との合同運動会
１０月	１０・１１日　一泊旅行　２０日　共立祭
１２月	２０日　クリスマス会
１月	１５日　三九郎　２４日　新年会
３月	１０日　慰労会

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数	延べ人数
病院	精神科検診	５	６０
医院	内科検診	３５	３５
その他の医療機関	歯科検診	２０	４０

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	２９年度	３０年度	元年度	２９年度	３０年度	元年度
受診状況	19	10	8	161	95	83
入院状況	0	0	0	0	0	0
施設内処置状況	10	0	12	750	0	40
機能訓練実施状況	0	0	0	0	0	0
合計	29	10	21	911	95	123

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

利用者	職員等	計
７，９９５	６４４	８，６３０

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	２，０００kcal	２，０５７kcal
タンパク質	７０～８０g	７９．５g
脂質	４４．４～５５．６g	５２．６g

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数	間食
主食	常食	３７	なし
	粥食	０	
副食	常食	３６	
	細刻み	０	
	粗刻み	１	
ミキサー食・ゼリー食		０	
経管栄養		０	
計	３７		

８　生産活動の状況

⑴　廃油回収量　（単位:ℓ）

入			出		
前年度繰越	当年度回収	合計	使用料	出荷量	次年度繰越
0	１５，７７０	１５，７７０	0	１５，７７０	0

⑵　支給工賃総額　（単位：円）

平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
１１，１３８，２８１	１１，５５０，５９６	１１，３５２，７１３

令和元年度　あい・アドバンス今井事業報告

１　事業目標

⑴　施設支援目標は、昨年度から継続して「個性を尊重した温かい支援によりハピネス（幸福感）を届ける」とし、「笑顔・挨拶・アイコンタクト」を基本に、利用者への接遇を向上させ、職員同士のコミュニケーションを良好にします。

⑵　施設の専門性を強化し、利用者の意思決定を尊重した個別支援及び生活環境の提供に努めます。

⑶　地域社会とのつながりを大切にし、施設の取り組み及び障がい者に対する理解の促進を図ります。

２　取組結果

⑴　接遇向上の意識定着に向けて、毎日の朝礼での「あい・アドバンス今井職員行動規範」の唱和と、行動規範に基づいた毎月の行動目標を設定し実施しました。

　また、班（支援グループ）の見直しを行うとともに、支援員が所属班の枠を超えて支援を行うことで、全ての利用者の支援方法や課題の共有化を図りました。

　今後は、職員アンケートや職員ミーティングの機会において、職員個々の意識の確認と改善状況の把握に努めます。

⑵　専門知識と技術向上のため、長野県知障協主催の各セミナー（年４回開催）等各種研修に参加するとともに、県内外の先進施設の見学を行い、当施設の将来に向けた見識を広げました。

　また、個別の支援については、個別支援計画書策定に際し、利用者や家族の思いの聞き取りの充実を図りました。従来、「当たり前・当然」と思われてきた支援や課題を見直すとともに、改めて利用者の思いと支援者の気づきを支援チームで検討し、根拠を明確にした個別支援計画の策定に心掛けました。加えて個別支援計画の実施に際しては、本人や家族に対し丁寧な説明を行いました。

⑶　圏域の新規利用希望の個別のケア会議、検討会議等に出席し、当施設のサービス内容や特徴を説明するとともに、地域ニーズの把握に努めました。日常的な利用のニーズに応えられない希望者に対しては、日中一時支援事業等の制度を活用した体験利用の機会を設けました。その結果、利用者及び関係機関の皆さんに施設の取組みを理解いただくことができました。

　また、幼児教育・保育実習生や介護福祉士実習生の受入れを行いました。７月には公園の花壇整備を、「第２共立学舎」の利用者と松本短期大学の学生１０人と合同で行うなど、地域社会に開かれた施設運営に心掛けました。

３　特記事項

⑴　強度行動障がい者ほか、入所利用希望者への対応

圏域内の社会資源の不足、とりわけ強度行動障がい者の受入れ施設が不足している状況があり、入所利用の希望者が増加しています。このような希望に対し、他施設と連携し、短期入所や日中の生活介護、日中一時事業等の様々な制度を利用し、少しでも利用者や家族の要望に応えるよう努めました。

⑵　利用者の高齢化対策

当施設は、開所５０年を目前として、利用者の高齢化は著しいものがあります。このような状況に対し、介護技術の向上を図るとともに、救急救命講習を受講するなど、介護力の向上に努めています。また、常時重度の介護や医療的な支援が必要になった利用者については、適切な介護や医療が受けられる環境への移行を利用者・家族と一緒に検討して、４人の方が介護保険施設や身体障害者施設など、新しい施設に移ることができました。

⑶　施設運営の透明化

事故の発生状況、苦情・要望の内容など、施設の運営状況を広報誌等に掲載し、積極的な情報の発信に努めました。また、施設の第三者委員報告会において、第三者の立場から意見や指導を受け、施設運営の改善に努めました。

⑷　利用者の芸術活動の推進

利用者の日中活動の一環として、芸術活動の推進を行ってきました。

今年度新たに法人内の各施設と共同で「ほほえみアート展」を企画しましたが、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされました。

また、音楽活動においては、松本短期大学の先生から指導を受け、練習を重ね、施設内の行事等で披露しました。

⑸　新型コロナウイルス対策

２月から流行が発生した新型コロナウイルスの対策として、従来から行ってきた健康管理に加え、毎週、感染症対策委員会を開催し、日常的な環境衛生の徹底とこまめな換気を行うことで感染防止に努めました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		２９年度	３０年度	元年度(b)	
通所生活介護事業	１０	１９	１６	２２	１２
施設入所支援事業	５０	５０	４７	４９	△１

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
通所生活介護事業	7	1	6
施設入所支援事業	6	4	2

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	４	９	５	３	５	２６	５５．３	５６．１
女	９	３	５	２	４	２３	５０．０	５４．０
計	１３	１２	１０	５	９	４９	５２．８	５５．７

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１０	０	２	０	１	１３	３９．０	４４．０
女	４	１	０	１	３	９	４７．２	５７．０
計	１４	１	２	１	４	２２	４２．４	４７．５

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	２	９	１５	２６	５．５	５．５
女	０	０	０	２	６	１５	２３	５．５	５．９
計	０	０	０	４	１５	３０	４９	５．５	５．６

イ　通所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	１	１	８	３	１３	５．０	５．０
女	０	０	１	１	４	３	９	５．０	４．８
計	０	０	２	２	１２	６	２２	５．０	５．０

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１７	０	５	１	０	２	０	１	２６
女	１４	０	１	３	０	４	０	１	２３
計	３１	０	６	４	０	６	０	２	４９

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	７	０	３	２	０	１	０	０	１３
女	５	１	０	０	０	３	０	０	９
計	１２	１	３	２	０	４	０	０	２２

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	4	4	2	1	2	1	１４
女	5	4	0	2	0	0	１１
計	9	8	2	3	2	1	２５

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	３２	2	5	0	３９
女	２６	0	3	2	３１
計	５８	2	8	2	７０

ウ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	計
男	1	0	0	1
女	2	0	0	2
計	3	0	0	3

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	１４日　家族会総会、１８日　お花見会
５月	７日　歯科大巡回検診、１６日　避難訓練
６月	２・１０・１６日　家族会日帰り旅行、１２日　布団交換
７月	４日　松本短大学生との花壇花植え、１７日　七夕会、 １８日　避難訓練、２１日　家族会ボランティア作業、 ２３日　医師会検診
８月	６日　納涼祭、２９日　防犯訓練
９月	６日　夜間総合避難訓練、１０日　大規模災害訓練、 ２９日　家族会ボランティア作業
１０月	１７日　布団交換、２０日　あい・今井祭、 ３１日　感染症対策研修会
１１月	１４日　防災訓練、１６日　アート＆クラフト展、 ２１日　インフルエンザ予防接種、２８日　長野県知障協福祉大会
１２月	１７日　クリスマス会
１月	１５日　三九郎、１６日　虐待防止研修、２８日　救命救急講習
２月	４日　節分豆まき、６日　虐待防止研修、２２日　家族会理事会
３月	３日　ひな祭り、１７日　虐待防止研修

通年	精神科検診（毎月）、訪問歯科診療（週１回） 訪問マッサージ（毎週適時）、訪問理髪（毎月）
通年	ボランティア（紙芝居、カラオケ、おやつ作り）適時 地域コーディネーター（毎月）

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
音楽クラブ	１５	４２０	楽器演奏、合唱、ダンス
軽運動クラブ	２	５４	体育館での軽運動
アートクラブ	２	６６	書道・絵画の作成
計	１９	５４０	

６　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内　容	実人数	延べ人数
病院	村井病院精神科往診	６３	５７６
医院	医師会内科検診	５７	５７
その他の医療機関	松本歯科大歯科検診	５１	５７

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	29 年度	30 年度	元年度	29 年度	30 年度	元年度
受診状況	62	58	59	2，281	1，764	1，675
入院状況	9	11	5	570	298	154
施設内処置状況	3	15	14	720	1，563	1，753
機能訓練実施状況	0	0	0	0	0	0
合計	74	84	78	3，571	3，625	3，582

７　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

利用者	職員等	計
５３，４６７	２，５９４	５６，０６１

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	１，８００kcal	１，８１７kcal
タンパク質	６３～７２g	７４．９g
脂質	４０～４５g	５０．５g

⑶　食事内容及び間食状況　　（単位：人）

区分	形態	実人数	間食
主食	常食	４５	なし
	粥食	１３	
副食	常食	４１	
	細刻み	８	
	粗刻み	９	
ミキサー食・ゼリー食		２	
経管栄養		なし	
計		６０	人

８　短期入所事業等実施状況　　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延べ利用日数		
	２９	３０	元	２９	３０	元	２９	３０	元
短期入所事業	4	4	4	１７	１２	２２	９０９	６０１	９１３
日中一時支援事業				4	3	１２	２２７	２３５	３８３
タイムケア事業				2	1	0	８０	６５	0

令和元年度　ささらの里事業報告

1　事業目標

⑴　持ち上げない介護（ノーリフトケア）の推進
⑵　利用者意思決定支援のためのプロセスの充実
⑶　透明性の高い施設運営
⑷　利用者の健康維持、安全性の高い支援
⑸　質の高い支援を目指した研修の実施
⑹　地域で暮らす障がい者の生活と社会参加の支援
⑺　利用者と地域住民との交流促進や地域への情報発信の推進
⑻　職員が笑顔で働く明るい職場風土の醸成と労働環境の改善

2　取組結果

⑴　持ち上げない介護（ノーリフトケア）の推進

利用者の日々変わる容態を把握し、一人ひとりに合った持ち上げない介護方法の検討・検証を続けました。また、併せて介護者の身体負担の軽減に努めました。

ア　スライディングシートやスライディングボードを積極的に活用して利用者の安楽な移乗を行いました。

イ　移乗サポート器具「ハグ」を介護員が使用体験し、利用者の適性に基づいた検証を重ねたうえで、労働局の人材確保等支援助成金を活用して導入しました。年度末の導入であったため、今後も継続的に検証を行い、積極的に活用していきます。

ウ　職員が国際福祉機器展に出かけ、残存機能維持に関わる技術や新たなノーリフトに関する器具について情報を得て、施設職員に伝達しました。

⑵　利用者意思決定支援のためのプロセスの充実

ア　クラブの活動内容、一泊旅行、日帰り旅行他、外出時の行き先、エンパワメント活動、クリスマス等のイベント内容について利用者の希望を把握し、選択肢及び選択の幅を拡大しました。

イ　給食委員会において、利用者の意見及び希望を取り入れ、要望の多かった肉料理と、ケーキ類の提供を行いました。

ウ　利用者が参加する「ささら会全体会」を月１回開催して、生活全般の意見交換の場としています。要望を尊重した支援に取り組みました。

⑶　透明性の高い施設運営

ア　第三者委員・保護者コーディネーター報告会を年３回開催しました。（３月は書面報告）また、「ぴあねっと松本」の出張相談を月２回実施することにより、透明性の確保を図りました。また、苦情要望、事故・ヒヤリハットに基づく改善、サービスの質の向上に努めました。

イ　保護者と職員の親睦会を実施し、担当職員と保護者の意見交換を行いました。
ウ　ボランティア、実習生の積極的な受け入れを行い透明性の確保に努めました。

⑷　利用者の健康維持、安全性の高い支援

ア　事故･ヒヤリハット報告が９９件ありました。(通院治療を伴ったものは１件)
利用者の身体機能の低下による、ずり落ち、転落、医療的ケア（尿カテーテル）の増加等による管理上の案件が増えています。また、服薬に関しては、落薬が多く、支援方法の検討を重ねた結果、事故・ヒヤリハット報告は前年度に比べ４０パーセント減少することができました。

イ　厨房の衛生管理を徹底し、食中毒の防止と美味しい食事の提供に努めました。

ウ　日常の体調観察により、体調変化の早期把握に努め、病院への受診につなげました。入院延べ日数は９１１日／年で、前年度の６６１日／年に比べ、重度化が進んでいることがわかりました。感染症発生はインフルエンザが数人（利用者１人、職員１人）でしたが、タミフルの予防投与等を行い、感染を最小限に抑えることができました。

⑸　質の高い支援を目指した研修の実施

ア　職員全体研修として、平成１９年度入浴時における重大事故の振り返りと、虐待防止、権利擁護に関して、三施設の枠を超えてグループワークを行い、身近に潜む危険に気づく機会を持ちました。

イ　精神疾患がある利用者に対する支援の難しさが、不適切な支援に陥りやすく課題となっていたため、専門医を招き研修会を行いました。

ウ　喀痰吸引等研修（一号・三号)、介護福祉士実習指導者研修等、個人のスキルアップに向けた研修に努めました。

⑹　地域で暮らす障がい者の生活と社会参加の支援

ア　短期入所、日中一時支援は在宅生活を維持する皆さんのためのセーフティネットとして、また、家族の負担を軽減するための自立を目的とした支援を行いました。

イ　「みすぎの森」利用者の日中活動の場として、日中活動と医療的な支援の充実に努めました。

⑺　利用者と地域住民との交流促進や地域への情報発信の推進

ア　夜間総合避難訓練を内田、寿小池地区の自衛消防協力員１３人の協力を得て実施し、連携を深めました。

イ　夏祭り、秋祭りに地域の皆様の参加を呼びかけ、交流を行いました。

ウ　年２回発行の広報誌「ささらの里だより」で情報発信を行いました。

⑻　職員が笑顔で働く明るい職場風土の醸成と労働環境の改善

職員意識アンケート・ストレスチェック結果の分析、チューター制度、産業医面談で相談できる機会を持ちました。また、持ち上げない介護による負担軽減を通じて労働環境の把握と改善に努め、職員が笑顔で働く明るい職場づくりを行いました。

３　特記事項

⑴　権利擁護

職員による不適切な支援が数件あり、市町村虐待防止センターに通報しました。その結果、虐待認定及び不適切な支援に対する改善計画の提出、指導がありました。また、成年後見利用の支援、ターミナル時の意思決定支援を行いました。

⑵　衣料品出張販売の実施

外出が困難な冬季に、利用者の要望と第三者委員の提案を受け、衣料品の出張販売を初めて一日行いました。季節に合わせた商品を実際に手に取り、ゆっくりと選ぶことでき大好評でした。

⑶　新型コロナウイルス感染症の予防と利用者の心のケア

感染予防対策として、面会及び外出を自粛しました。制限のある環境において少しでも不安が解消できるよう、お茶会を開きました。また、家族に対して広報の号外を送り近況報告と協力を求めています。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		２９年度	３０年度	元年度(b)	
生活介護事業	５９	５８	６６	６４	５
施設入所支援事業	５０	５１	５１	５１	１

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	5	7	△２
施設入所支援事業	5	6	△１

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１	１３	３	５	４	２６	５８．８	５８．１
女	６	８	４	３	４	２５	５３．２	５６．３
計	７	２１	７	８	８	５１	５６．０	５７．２

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	５	０	２	０	０	７	４０．１	３９．０
女	３	２	１	０	０	６	３８．５	３８．４
計	８	２	３	０	０	１３	３９．３	３８．７

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	１	２	２３	２６	５．８	５．８
女	０	０	０	０	６	１９	２５	５．７	５．７
計	０	０	０	１	８	４２	５１	５．８	５．８

イ　通所　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	０	０	７	７	６．０	６．０
女	０	０	０	０	１	５	６	５．８	５．８
計	０	０	０	０	１	１２	１３	５．９	５．９

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１５	０	５	１	１	４	０	０	２６
女	１５	１	４	０	１	２	１	１	２５
計	３０	１	９	１	２	６	１	１	５１

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	３	０	１	０	０	０	０	３	７
女	１	０	２	０	０	２	０	１	６
計	４	０	３	０	０	２	０	４	１３

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	２３	３	０	０	０	０	２６
女	１７	６	１	０	０	０	２４
計	４０	９	１	０	０	０	５０

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	３	１	１	１	６
女	１０	１	０	０	１１
計	１３	２	１	１	１７

ウ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	計
男	０	０	０	０
女	２	０	０	２
計	２	０	０	２

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	４日　県議会議員選挙、１７日　市議会議員選挙 ２１日　春の顔合わせ会、２１日　保護者会総会
５月	２日　映画会、１９日　保護者会作業
６月	５日　感染症研修、１８日　日帰り旅行
７月	７日　保護者・職員親睦会、１２日　第三者報告会 １７日　夜間避難訓練、２８日　夏祭り
８月	５日　土用の丑食事会、１６日　リトルキヨシコンサート ２４日　保護者・職員親睦会
９月	１０・１１日　一泊旅行、１７・１８日　一泊旅行
１０月	１０日　防災訓練（昼間）、２７日　秋祭り
１１月	１８・１９日　一泊旅行、２４日　重大事故に学ぶ職員全体研修 ２２日　第三者委員報告会
１２月	７日　保護者・職員親睦会、１３日　そば会、２０日　クリスマス会
１月	１８日　そば会、２２日　衣料品出張販売
２月	３日　節分、６日　そば会
３月	３日　ひな祭り、２４日　春のお茶会
通年	外出支援、ソーイングボランティア、アルプス民謡連合会、読み聞かせボランティア、でんでんむしの会、個人ボランティア（毎週水曜日）、ピアカウンセリング

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
音楽クラブ	１３	２８９	カラオケ・音楽ＤＶＤ鑑賞
書道クラブ	８	１１５	書道
園芸クラブ	１１	１４２	野菜や花の種まき・支柱立て・収穫等
美術クラブ	５	６９	ハンドスタンプ・和紙染等
お日様クラブ	１３	９３	オイルマッサージ・足浴・日光浴
ささらシネマ	２３	３８６	ＤＶＤ鑑賞
紙芝居・創作	１４	２２４	紙芝居・読み聞かせ等
音楽・ピアノ	１０	２５９	音楽ボランティア・ピアノ演奏
季節活動	１０	８７	桜花見・柿の収穫等
計	１０７	１，６６４	

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　　（単位：人）

実施機関	内　容	実人数	延べ人数
医院	内科検診	５１	１０２
その他の医療機関	歯科検診	５２	５２

⑵　受診人数等　　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	29 年度	30 年度	元年度	29 年度	30 年度	元年度
受診状況	52	52	52	2,522	1,948	2,669
入院状況	18	17	22	589	661	911
施設内処置状況	52	52	52	1,872	2,160	1,872
機能訓練実施状況	52	52	52	1,872	2,160	1,872
合計	174	173	178	12,636	12,497	14,781

7　給食

⑴　年間給食数　　（単位：食）

利用者	職員等	計
５１，９９６	２，４４５	５４，４４１

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	１，６００kcal	１，６０１kcal
タンパク質	６５g	６３．１g
脂質	４５g	４５．７g

⑶　食事内容及び間食状況　　（単位：人）

区分	形態	実人数	間食
主食	常食	２７	週１回 日曜日
	粥食	１３	
副食	常食	１０	
	細刻み	１９	
	粗刻み	１１	
ミキサー食・ゼリー食		5	
経管栄養		6	
計	５１		

８　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延べ利用日数		
	２９	３０	元	２９	３０	元	２９	３０	元
短期入所事業	4	4	4	１９	２２	２９	８２１	６２９	６６２
日中一時支援事業				1	3	4	１６	１８	１５
タイムケア事業				1	1	0	2	4	0

令和元年度　こきりこささら事業報告

1　事業目標

⑴　利用者満足度アンケートの結果を参考に、利用者及び家族の希望や意思決定に基づいた安全で質の高いサービスを提供し満足度を高めます。

⑵　職員間で利用者支援方針を共有し、チームによる支援力を高めます。

⑶　１日平均利用者数２０人を目標に取り組みます。

2　取組結果

⑴　サービスの満足度向上

ア　満足度アンケートの結果をもとに、外出支援では新たな外出先の提案や外出日の希望などの調整を行いました。創作活動の壁面創作では、参加した利用者が馴染みやすい作品にし、形に残すことで満足度を高めることができました。

イ　定期的な利用日以外の希望やショートステイからの利用希望を積極的に受け入れ、利用者の地域生活を支援しました。

ウ　介護サービス、送迎サービス、日中活動等について、利用者の意見を尊重し、要望に沿ったサービス提供に努めました。

⑵　チームによる支援力

ア　ケア会議に積極的に参加し、家族及び他事業所との連絡を密にすることで、職員間の情報共有を図りました。

イ　法人理念、ささらの里職員倫理綱領及び職員行動規範に基づいてサービスを提供しました。日々の声掛けを積極的に行うことで話しやすい環境を作り、傾聴することを心がけました。

⑶　１日平均利用者数２０人

ア　新規利用希望者について、関係機関及び家族と調整を行い、９人が利用を開始しました。また利用日の拡大など希望に沿って検討を行いました。

イ　「ささらの里」及び「みすぎの森」のショートステイ利用者を積極的に受入れ、希望に沿った日中活動の支援を行いました。

ウ　１日平均利用者は、１８．７５人（前年度１８．０８人）でした。利用終了者を新規利用者が上回りましたが、介護保険施設のショートステイ等の利用増、体調不良や入院で休む方、また、年度末には新型コロナウイルス感染症に伴い、外出自粛する利用者が増えたことで利用者数が伸びませんでした。

3　特記事項

⑴　ＪＩＮＲＩＫＩ（簡易装着型けん引式車いす補助装置）をＮＨＫ歳末たすけあい募金を受け導入しました。屋外における移動が安全で迅速になり、外出の活動範囲が拡大しました。また、災害時の緊急移動時に活用します。

⑵　２月から流行した新型コロナウイルス感染症への対応として、日常的な利用者及び職員の健康管理に加え、「密閉」、「密集」、「密接」の３つの『密』を避ける取組みや換気を行なうなど、感染予防に努めました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		２９年度	３０年度	元年度(b)	
生活介護事業	２０	６３	６６	６８	４８
地域活動支援センター事業	６	５	６	７	１

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	７	５	２
地域活動支援センター事業	２	１	１

⑶　年齢別状況　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１４	１５	５	６	７	４７	５１．８	５２．４
女	１２	８	４	２	２	２８	４５．５	４６．２
計	２６	２３	９	８	９	７５	４９．４	４９．９

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	１	４	１４	５	９	１４	４７	４．３	４．２
女	０	５	３	５	５	１０	２８	４．４	４．５
計	１	９	１７	１０	１４	２４	７５	４．３	４．３

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	４３	０	４	０	０	０	０	０	４７
女	２２	０	３	０	０	２	０	１	２８
計	６５	０	７	０	０	２	０	１	７５

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	２７	１０	４	１	０	１	４３
女	１１	１２	２	１	０	０	２６
計	３８	２２	６	２	０	１	６９

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	１０	０	２	２	１４
女	８	１	３	０	１２
計	１８	１	５	２	２６

ウ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	計
男	１	１	０	２
女	１	０	０	１
計	２	１	０	３

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	職員研修（救命救急講習・安全運転研修）、お花見外出、ゲーム
５月	一日外出（霧ケ峰ドライブ）、外食外出（アイシティ他１回）
６月	一日外出（安曇野アートヒルズ、ラ・カスタ他）、外食外出（今井道の駅他３回）、オープンテラス食事会
７月	一日外出（岡谷蚕糸博物館、あづみの公園バーベキュー、ちひろ美術館他）、外食外出（アイシティ）、紫陽花見学
８月	一日外出（イオンモール松本）、外食外出（お寿司他３回）、行事食（うなぎ）
９月	一日外出（霧ケ峰ドライブ、梓水苑バーベキュー）、外食外出（南松イオン他２回）
１０月	一日外出（霧ケ峰ドライブ、スイス村・あづみの公園）、外食外出（アイシティ他４回）、ゲーム
１１月	紅葉見学
１２月	クリスマス会、ＤＶＤ鑑賞、行事食（そば）
１月	書初め、お茶会、行事食（そば）
２月	満足度アンケート実施、行事食（そば）、春の食事会
３月	記念撮影・アルバム作り、行事食（ひな祭り）
通年	演芸ボランティア（和楽クラブ）

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
創作活動	７０	３３２	壁面創作（オリンピック）、コースター、ストラップ、ランプシェード、うちわ、干支の置物、書初め、アルバム作り

調理実習	５２	１３０	ラミントン、チョコレートケーキ、ふわふわ鈴カステラ、フルーツタルト、どら焼き、クッキー、あんみつ、ティラミス
機能維持訓練	５７	５７８	歩行訓練、車いす自走訓練、立ち上がり、ストレッチ、マッサージ、エスカルゴ等
カラオケ	５４	３７７	ホームカラオケ、プロジェクター、音響設備を使用し実施
計	２３３	１，４１７	

６　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

利用者	職員等	計
４，９１１	７５２	５，６６３

⑵　一日平均摂取栄養量（昼食のみ）

区分	目標値	実績
エネルギー	６４０kcal	６３０kcal
タンパク質	２７g	２３．９g
脂質	１７g	２８．８g

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数	間食
主食	常食	６１	なし
	粥食	８	
副食	常食	６０	
	細刻み	７	
	粗刻み	２	
ミキサー食・ゼリー食		１	
経管栄養		５	
計	７５		

７　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延べ利用日数		
	２９	３０	元	２９	３０	元	２９	３０	元
地域支援センター事業	6	6	6	5	6	7	210	188	206

令和元年度　みすぎの森事業報告

1　事業目標

⑴　「一人ひとりの意思及び人格を尊重」し、家庭的な環境の中で、個別の希望に合わせた生活支援を行います。

⑵　地域生活を通じ、積極的に地域との交流や社会体験を行います。

⑶　「みすぎの森」と「第２みすぎの森」が協力し合い、効率的な運営を図るとともに、「ささらの里」と連携して支援体制を強化します。

2　取組結果

⑴　「一人ひとりの意思及び人格を尊重」した家庭的な環境での生活支援

ア　前年度から課題であった入浴について、利用者の希望、体調、予定に応じ体制を組み実施することができました。

イ　家庭的で季節感のある行事（お花見、焼き肉、流しそうめん、恵方巻きづくり等）の体験を通して、仲間と交流を深める場としました。

ウ　健康維持に向けて、個別に外部医療機関の療法士（通院及び訪問）が関わり体調に合わせた機能維持訓練を継続して取り入れています。

エ　短期入所では定期的な受け入れに加え、緊急性のある受け入れを実施しています。

オ　在宅の視覚障がいやコミュニケーションを苦手とする障がい者で、小人数の住まいや個室を望む新規の利用者の相談が多く、その見学等にも積極的に対応しました。

⑵　積極的に地域との交流や社会体験

ア　寿地区ふくし広場が行う、文化祭、交流会にグループホームとして参加しました。

イ　社会交流の場を増やすため、個々の希望に合わせた予定を作成し、外出を支援しました。

（ｱ）　絵手紙、スイミングに加え書道教室の参加が始まりました。

（ｲ）　ドライブ、外食、買い物に出かける機会が増えました。

⑶　「みすぎの森」と「第２みすぎの森」の協力による効率的な運営と「ささらの里」と連携した支援体制の強化

ア　両施設の職員が双方の利用者の容体変化など緊急時の対応を支援できる体制を整えました。このことにより、職員のストレスの軽減にもつながりました。

イ　「ささらの里」とともに、「みすぎの森」、「第２みすぎの森」の感染症対策の徹底に努めました。

３　特記事項

⑴　利用者の要望による、地域交流、社会体験

利用者アンケートを基に、福祉車両バスを利用して山梨河口湖の日帰り旅行を企画し実施することができました。

⑵　リスクマネジメント

服薬に関する事故防止対策として、在宅訪問薬剤管理指導を導入して、安全な服薬管理に努めました。

４　利用者の状況（令和２年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員(a)	年度末現員			差引
		２９年度	３０年度	元年度(b)	(b)-(a)
共同生活援助	１４	１４	１４	１３	△１

⑵　令和元年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
共同生活援助	0	1	△１

⑶　年齢別状況　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	5	0	2	0	0	7	４０．１	３９．０
女	3	2	1	0	0	6	３８．５	４２．７
計	8	2	3	0	0	１３	３９．３	３９．３

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	0	0	0	0	0	7	7	６．０	６．０
女	0	0	0	0	1	5	6	５．８	５．８
計	0	0	0	0	1	１２	１３	５．９	５．９

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	3	0	1	0	0	0	0	3	7
女	1	0	2	0	0	2	0	1	6
計	4	0	3	0	0	2	0	4	１３

⑹　障がいの状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	7	0	0	0	0	0	7
女	5	1	0	0	0	0	6
計	１２	1	0	0	0	0	１３

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	4	0	0	0	4
女	1	3	0	0	4
計	5	3	0	0	8

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	花見、オープンハウス、松本市期日前投票
５月	焼肉会、流しそうめん会
６月	盆踊り練習
７月	夜間避難訓練
８月	流しそうめん会、花火大会
９月	寿地区福祉の喫茶店参加
１０月	ささらの里秋祭り参加・寿地区福祉の文化祭参加
１１月	山梨河口湖日帰り旅行
１２月	クリスマス会兼保護者会職員親睦会
１月	三九郎
２月	節分、恵方巻き作り
３月	ひな祭り、甘酒会、松本市長選期日前投票、退職職員お別れ会
通年	おやつ作り
通年	イベント食（パンバイキング）

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数	延べ人数
病院	歯科検診	１４	１４
	胸部レントゲン	１４	１４

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	29 年度	30 年度	元年度	29 年度	30 年度	元年度
受診状況	7	14	14	141	249	279
入院状況	1	1	3	56	25	109
施設内処置状況	7	14	13	25	62	1，585
機能訓練実施状況	7	14	13	343	2，436	2，201
合計	22	43	43	565	2，817	4，174

7　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延べ利用日数		
	２９	３０	元	２９	３０	元	２９	３０	元
短期入所事業	1	2	2	12	19	16	99	263	206
体験宿泊事業	1	2	2	3	1	3	10	3	11

（注）体験宿泊事業については、宿泊を伴わない日中のみの体験者です。